

今回は、GX（グリーントランスフォーメーション）についてお伝えします。

GXについて

GXとは

GXとはGreen Transformationの略で、化石燃料ではなく太陽光発電などのクリーンエネルギーを利用し経済社会システムや産業構造を変革して温室効果ガスの排出削減と産業競争力向上の両立を目指す概念ですが、簡単に言うと、化石燃料をできるだけ使わず、クリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動のことです。

GXはなぜ必要か

現在、世界中の国、企業、市民が地球温暖化を引き起こしている温室効果ガスの削減に取り組んでいます。日本は国として、2050年にカーボンニュートラルを実現することを国際的に約束しています。カーボンニュートラルとは、「温室効果ガスの排出量と吸収量を同じにする」という意味です。この約束を実現するには、社会の仕組みそのものを変えることが必要です。また、そのための活動を経済成長の機会と捉え、産業競争力を高めることが必要です。そのために必要な取り組みが「経済社会システム全体の変革」である「GX」なのです。

GXが注目されている背景には、地球温暖化の深刻化があります。温暖化に伴い大規模な水害や森林火災などさまざまな環境問題が発生しており、環境問題による経済損失は計り知れません。温室効果ガスの排出の高い状況が続いた場合、未曾有の干ばつや洪水の発生リスクが高まると予測されています。

GXとカーボンニュートラルとの違い

カーボンニュートラルとは「温室効果ガスの排出量と森林などによる温室効果ガスの吸収量を均衡させ排出量を実質ゼロにする」という地球温暖化対策の一種です。カーボンニュートラルは、GXの基軸となる施策の一つであり、GXはカーボンニュートラルを包含する概念です。

企業がGXに参加するメリット

・公的予算が増えるなど政府の後押し

日本政府は「2050年カーボンニュートラル宣言」「GXを重点投資分野の一つに指定する」などGXに力を入れています。今後10年の間に官民協調で150兆円規模の投資を行う方針もあるため、企業はGXに参加することで資金的な援助が期待できると思われます。

・消費者に対するイメージ向上

企業は、GXへ参加することで環境問題に力を入れていることを社内外にアピールできます。消費者側も環境問題に対する意識が向上しているため、環境問題に取り組む企業姿勢が評価されブランドイメージの向上が期待できます。

GXとDXの関連性

一見すると直接関係がなさそうなGXとDXですが、GXの実現にはDXが必要不可欠になりGXとDXは非常に密接な関連性があります。例えば、脱炭素化には欠かせない電気自動車はさまざまなデジタル技術を活用とした自動車のDXがベースとなっていますし、AIを活用して電力の需要予測・最適化を図るためにはデジタルによる業務フロー改善が必須です。そのため、GXの実現にはさまざまな業務をデジタル化し、企業そのものを変革するDXを実現しておく必要があります。

世界で緊急課題となっている地球温暖化対策のなかでも温室効果ガスの排出削減は重要な施策の一つです。また、ウクライナ情勢の影響もあり世界的にエネルギーの需給が不安定な状況のため、エネルギー安定供給の確保に向け、徹底した省エネに加え、再生エネルギー自給率の向上の助けとなる脱炭素電源への転換などGXに向けた脱炭素の取組を進める必要があります。

これらを実現するためには、世界的に多くの企業がGXに取り組むことが重要と考えます。